

# 新刊「暮らしと地域経済に希望をー名古屋経済の明日を考えるー」

編集・地域経済の将来を考える研究会

発行・東海自治体問題研究所

頒価 500 円

名古屋市政への政策的な問題提起として大木一訓、梅原浩次郎、遠藤宏一、山田明、井内尚樹、太田義郎の各氏を始めとして 20 名が執筆。

はしがき

私たちの住む名古屋は、大都市の中ではとても住みやすいまちだと言われてきました。広々として水や空気がきれいなうえに、住宅事情が良く、買い物など日常生活にも便利なこと。仕事も、大企業だけでなく、伝統のあるさまざまな職種が引き継がれていて、若者がそれほど求職に苦勞することも無い。無料敬老パスなどの福祉も市民の誇りでした。そして、なによりそこには人びとの和がありました。

名古屋の良さがすべて無くなったわけではありません。しかし最近、名古屋は大都市の中で最も魅力のない街だと言われるようになってきました。活気がなく、文化の匂いがしないと言うのです。「そんなことはない」と言いたいのですが、市民生活に眼をこらすと、シャッターだらけの街のなかに、日々のアルバイトに追われる若者たちやお腹をすかせた子どもたち、明日の家計に頭を抱える親たちの姿が見えてきます。多くの市民が、懸命に働いてもまともな生活ができなくなっています。職場や地域でも、いや家庭のなかでさえ、人と人との絆が弱くなり、ギスギスしたものになってきています。

<中略>

いま世界では、貧困・格差の拡大に対する民衆の怒りが政治の仕組みを大転換させる動きが広がっています。私たちはその怒りを真に人々の希望を実現する力に変えなければなりません。日本ではすでに、市民の連帯が安倍政治の暴走に歯止めをかける力を発揮しはじめています。名古屋でも私たちは、市民の連帯で、暮らしと地域経済のなかに希望を創り出すことのできる時を迎えているのではないのでしょうか。

本書は、そうした確信にもとづき、それぞれの筆者がその専門領域から上記のような諸問題に取り組み、率直で斬新な見解を提示しています。私たちの郷里・名古屋を大切に想う市民みなさんが、一人でも多く本書を手にとり、共に語り合ってくださいることを願ってやみません。

「あしがき」より

「地域経済の将来を考える研究会」が発足したのは、4年前の2012年のことです。以来、この地域の地域経済に関心を持つ人々は、ほぼ2か月に1度の頻度で研究会を開催し、報告・討論を行ってきました。2015年1月にはその最初の成果として、『岐路に立つ愛知県経済—地域経済の将来をどう展望するか—』を出版することができました。同年2月には愛知県知事選挙が控えており、地域の関心もさらに高まるものとして研究会の成果を世に問うたものであります。A4版、98頁、執筆者は18名によるものでした。

その後も、研究会は引き続き開催されてきました。そして2年近く経過した2016年12月に新たな上梓にこぎつけるところまでに来たのです。2017年4月には、名古屋市長選挙が迫っているという時期を捉え、問題提起を行いたいと考えたからです。今回研究対象としたのは、主として名古屋地域を念頭においたものですが、対象の性格によっては愛知県下、さらにはもう少し広げたものもあります。題名は、『暮らしと地域経済に希望を—名古屋経済の明日を考える—』です。暮らしと地域経済を取り巻く環境は、いつにもまして厳しいものがあります。

そうした厳しさの中に、私たちは何としても希望を見出さなくてはならない。明日をめざす私たちに希望があつてこそ、生きて行くことができます。そうした思いを持って本書を編集しました。

問合せ・申込みは TEL 又は FAX で東海自治体問題研究所まで

(TEL/FAX 052-916-2540)